

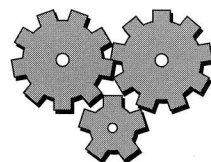
NPO法人

# 北九州TSニュース

Kitakyushu Techno-Support

2004

1



通巻2号／平成16年1月20日発行  
発行／NPO法人 北九州テクノサポート  
・発行人 秦 吉昭 ・編集人 三上 亨  
北九州市戸畑区中原新町2-1・北九州テクノセンタービル2F  
〒804-0003 Tel・Fax093-873-1453



## 新年のご挨拶

会長 秦 吉昭

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、きっと「今年こそは」という新たな決意でお迎えになったのではないかと推察いたします。

昨年は年初のSARSに続いて冷夏に見舞われ、産業や観光は大打撃を受けました。やっと最近では、国内の景気動向指数が「上昇傾向」であると報道され、誠に喜ばしく思います。一方、気がかりだったことは工場やタンク火災事故、ロケットのトラブル等が続き、IT化の進歩と設備と人のミスマッチ等がささやかれ、技術の信頼性が揺らぎかねない点です。

我々は、昨年NPO法人として再出発しました。平成7年に「T・S会」として(株)北九州テクノセンターの協力・支援団体として、技術調査や中小企業の皆さんの相談・助言・指導等また大学・高専等の研究シーズを民間企業へ技術移転(TLO)のサポートおよび中小企業事業団の委託事業等を行ってまいりました。平成14年4月その主要業務が(株)北九州産業学術推進機構(FAIS)へ移管を期に、これまでのノウハウをベースに委託事業や社会的な認知団体として、産業振興に貢献する目的をもって昨年4月NPO法人化しました。スタートして8ヶ月余を過ぎましたが何分認知度も低く、また関係機関の組織改正もあり、PRに努めておりますが思うような事業にはいたらず、苦節の時期を過ごす状況になっております。我々は

部会制をしき、新組織で今年こそはと決意を新たにしておるところです。

企業の皆さんには、我々NPO北九州テクノサポートが抱えております豊富な人材や知識、技術、経験、ノウハウを是非活用して頂きたいと思っております。困っている課題やよろず相談を気軽に申しつけてくだされば幸いです。今後、訪問の節はよろしくお願ひします。我々で解決できないものは、他の機関や他の地域等と連絡し、誠心誠意対処し協力いたします。特に近年の類似事故やトラブルは謙虚に受け止め、我々の知恵やノウハウを活かして欲しいと思っております。技術や信頼性を是非取り戻したいものです。

行政や公的機関および大学、高専にはこれまでに以上に関係を密にして、また企業の皆さんとは適確な連携をはかり、ITの実践化を図りながら、産業振興や環境問題等に積極的に取り組み、お役に立てるよう社会貢献の一翼を担いたいと決意しております。

我々は行政や公的機関、企業の皆さんの要請に応えるためにも、時代の背景や流れ、ニーズ等をしっかり把握し、常に研鑽を積み重ねて参りたいと考えております。本年は部会活動の積極的な推進と更に活動範囲を広げ、NPOの理念に基づき広域的な貢献を果たすべきだと思っております。何卒更なるご支援とご鞭撻をよろしくお願ひします。



## 新年のご挨拶

北九州市長 末吉 興一

明けましておめでとうございます。

北九州市は昨年、市制40周年という節目の年を迎えました。人間に例えれば“不惑”の歳であり、将来の飛躍に向けた地歩固めが進んだ年でした。

相次いでオープンしたりバーウォーク北九州や平尾台自然の郷などが創り出す新しい賑わいは、「人の集うまち北九州」「観光都市北九州」への変貌を強く印象づけました。

また、地域経済の活性化をさらにステップアップさせる北九州国際物流特区の創設や、雇用回復への確かな道筋を示した、一万人雇用創出計画の策定にも取り組みました。産業振興においても、半導体などの情報産業に加え、自動車関連の部品メーカー進出など、確かな成果をあげつつあります。また、北九州エコタウンでは、大手飲料品メーカーのリサイクル工場が操業するなど、ますます日本を代表する環境産業の拠点としての地位を揺るぎないものにしていきます。

今年は、市民生活に身近な分野を中心に、昨年着手した新たな取り組みを、市民の皆様の目に見える形にしたいと考えています。

まず、昨今の凶悪事件の多発を顧みて、関係機関と連携しながら、暴力のない安全で安心なまちづくりに全力をあげて取り組みます。

また、全国的に評価の高い「地域福祉の北九州方式」を新たなコミュニティの仕組みとして発展させます。将来を担う人材を育成するため、「教育の北九州方式」の創造や「環境首都」に向けたランドデザインづくりにも取り組みます。

経済面では、引き続き、市内中小企業の支援や国際物流特区をテコにした企業誘致に全力を傾けます。

一方、新北九州空港や響灘大水深港湾も完成までもう一息です。また春には、待望の小倉伊勢丹がオープンし、JR門司駅そばにはピアミュージアムが、若松北海岸にはフィッシャーマンズワーフも完成し、まちの魅力が一層増すことでしょう。

厳しい社会情勢の中でも、大輪の花が徐々に開こうとする。市民が真の豊かさを感じ始める。北九州市の平成16年は、まさにそのような年にしたいと考えています。

啓  
春

## NPO法人北九州テクノサポート

会 長	秦 吉	昭	理 事	泉 館 昭 夫
副 会 長	仲 隆	喜	"	泊 正 雄
"	小 川	勝	"	石 川 浩
理 事	本 村	隆	"	安 東 静
"	米 澤	昌	監 事	増 田 幸 一
"	三 上	亨		

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2番1号 (株)北九州テクノセンター内  
TEL・FAX (093)873-1453  
<http://tsk.ktc.ksrp.or.jp/>

新春  
座談会

モノづくり支援とKTS活動



正面安藤部長、右側山崎専務、鶴田会長、左側秦会長、手前司会三上

◇出席者 (順不同)

- 安藤 英和  
北九州市産業学術振興局産業振興部長
- 山崎 得司  
(勲)北九州産業学術推進機構専務理事
- 鶴田 暁  
北九州環境ビジネス推進会代表幹事
- 秦 吉昭  
NPO法人・北九州テクノサポート会長
- 三上 亨 (司会)  
" 理事・広報部会長

三上 (司会) 本日のテーマは、“モノづくり支援とKTS活動”、まずそれぞれの立場から、このテーマに即して1年を振り返って頂きたい。

意取り組んだ1年でもあった。

この1年を顧みて

新しいモノづくり目指して

安藤 14年度の大規模機構改革の一環として、知的基盤の充実と活用による産業活性化を図るべく産業学術振興局が設置され、産業学術推進機構に産学連携と中小企業支援体制が一本化された。

この1年、これらの取り組みの着実な進展が図られた。その一翼としての中小企業支援センターによるワンストップサービスの充実強化にも努めた。



15年8月には、科学技術振興会議の答申を受けて、新しいモノづくりの街の実現を目指し、「北九州市科学技術振興指針」が策定された。

この指針では、既存企業の高度化・活性化策と併せ、次世代産業の振興策を2本柱とする産業活性化計画を打ち出した。

次世代産業としては、次の7分野<システムLSI、環境情報、バイオ情報、ロボット、バイオ生産、ナノマテリアル、クリーンエネルギー>を重点に、新しいモノづくりの推進を図るべく、鋭

実効期するのはこれから

山崎 われわれの(勲)北九州産業推進機構 (F A I S) の体制も、この1年でしだいに整ってきたが、その柱の一つである産学連携について言えば、その結び付きはまだまだ弱いというのが実感である。その意義・役割りについてまだ学会での浸透

は浅く、社会的認知度も低い段階である。

もう一つの柱である中小企業支援については、総括的ではなく重点的な取り組みが肝要だと感じている。

“景気は持ち直している”と言われるが、当地での実感には程遠い。支援の中味は技術に限らず、例えば市場開拓などが重要であり、総合的な支援が図られねば、中小企業支援の実効は期せられないのではないか。

この1年、実際の取り組みの中からこの感を深くしており、これからの活動に期したい。

創立5周年期に事業活発化

鶴田 われわれ北九州環境ビジネス推進会 (K I C S) は、地域の環境ビジネス関係43業者で構成、昨年10月に創立5周年を迎えた。

当市はH9年7月に「エコタウン事業」第1号地域指定を受け、環境先進都市として国内外から

高く評価されている。

会員の半数近くはエコタウンに進出している。環境産業は、資源循環型経済社会の実現に向けて今後成長著しい新産業と目されているが、会員の大半はまだ収益以前の段階のようだ。

本会では環境ビジネスに関する技術・市場情報の提供やプロジェクトの企画創出、大学、行政、他団体・企業との交流連携、本会及び会員の活動に関するPR、情報発信を事業内容としている。



5周年を迎えたこの1年は、これを期とする事業の推進を図ってきたが、特に各方面とのネットワークづくりの強化に努めてきた。

## 法人化で部会活動強化

**秦** 本会は、従来のT・S会を発展的に解散、15年4月16日、非特定営利法人・北九州テクノサポート(KTS)として新発足した。



法人化は永年の念願であり関係機関・団体からもつとに期待要望されてきた。

新法人では、活動の中心を部会組織におくこととし、この1年は、その編成に当たり、

全会員いずれかの部会に参加するよう呼びかけてきた。この間は、産学連携その他従来事業も継続してきたが、関係機関からの事業委託その他本格的な受注開拓は、まだこれからの段階であり、法人化と組織体制づくりに追われた1年だった。この基盤に立って今後事業の展開を期したい。

## 新年の展望と抱負

**三上** 経済の先行きに明るさが見えてきたものの、当地では未だしの感が深い。この中でいかに活性化を図るか。“中小企業支援”を重点に、各立場から新年の展望とプランを伺いたい。

## 7分野重点に新産業育成

**安藤** 前述の産業活性化計画では、まず既存中小企業対策を挙げている。管内各社のニーズや課題は何か、アンケートや事業所訪問を通じて、①競争力向上 ②営業力強化 ③人材育成の3点が

ウィークポイントとして明らかにされた。中小企業振興課や支援センターでは、従来対策の充実に加えて、商談会や特別研修など起業化対策を含めて支援内容の拡充を図っていききたい。

第2の新産業育成では、重点7分野についてすでに実際的取り組みが進展、バイオやロボットなどその産業化の芽が出てきつつある。この芽を大切に育てていきたい。

併せて、既存中小企業の中でも新事業展開に向けて意欲的な所には、積極的に支援したい。

それと国が進めている構造改革特区で、昨年11月、北九州市を含めてロボット特区に認定された。

この認定により、一般公道上でもロボットを歩かせる実証実験ができることになった。これは、ロボット産業育成の大きな手がかりである。

われわれは、国際ロボット見本市に合わせてこの路上の実証実験をやりたいということで、現在内部でそのプランを検討中である。

## 新産業創出にプロジェクト

**山崎** 中小企業支援では、例えば売上げが拡大したとか新商品開発に成功したとか、具体的な成果が出るまでにしたい。それには、研究開発支援についてもラストの商品化まで支援する体制をつくる必要がある。従って、どうしても重点的な支援になるが、ぜひ具体的な成果を挙げたい。

次に、新産業創出につながる大型プロジェクトを積極的に起ち上げていきたい。それには、企業の皆さんがぜひ積極的に参加して頂きたい。

例えば、昨年の実績では、太陽電池の開発が進んでいる。これはNEDOのテーマとして、こちらからの提案が採択された。2年間の研究開発が成功すれば、今度は新たな実証段階のプロジェクトが起ち上がっていく。それが成功すれば、当市に新しい太陽電池関係のモジュールから部品産業が育っていき、裾野が拡っていく。そういうプロジェクトを考えている。

それともう一つ今年当たりから、知的クラスター創成事業の成果が出てきそうなので、その実現のための努力をしていきたいと思っている。

## 国際化対応、連携の推進を

**鶴田** 今や環境ニーズが社会問題化され、市場経済化されつつある。拡大生産者責任とか、排出者責任が問われているが、例えば、家電をヨーロッ



パに輸出したら、メーカーは廃棄まで責任を持って、と言われるし、有害物質が入っていたら罰金が科せられる。部品も安全性のチェックを受ける。

その対応状況によってランク付けされ、その商品が受けるとかブランド化されるという傾向がある。その意味でも、これから環境産業は伸びていくだろうと思ってる。

私は中国から帰ったばかりだが、中国には既に2万5千の日本企業が進出している。これからは、日本対外国ではなくて世界の中の日本という位置付けに変わってくる。K I C Sとしても、この際国際ビジネス部会を作り、ビジネスモデルのデータベース作りを進めていきたい。

それと本年は、いろんな大学やNPOとも交流を拡げ連携して、そのネットワーク化を進展させたい。K I C Sの会員は、従来からの本業のコア技術を活用してヨコ展開して環境産業に拡げているというメンバーが大半であり、大学や若いベンチャーなどとの交流を通じて、われわれに足りないところを補っていくことが重要である。

今やバイオもナノテクも横展開の産業なんで、従来のタテ割りから脱却して、広く交流連携の輪を拡げていく時代が到来していると思う。

### 部会活動軸に自力開拓を

**秦** われわれ100名近くのメンバーは、企業の技術者OBが主体である。持っているポテンシャルは、かつて培った知識経験やノウハウであり、その知的財産を埋もれさせるにはもったいない、それを少しでも社会のお役に立たせたいというのが原点となっている。

NPO法人として新スタートしたが、まだまだ社会的認知度は低い。これから先の1年も、いろんな方法を使ってPRし、認知度をアップしていきたい。

行政、企業、大学などいろんな関係方面には一層のご支援ご協力を願いたい、われわれとしてはかつてのテクノセンター当時と違って、独自に自力を発揮する力もつけねばと考えている。

会員はそれぞれの得意分野を持っているので、部会活動の中からその力を生み出していきたい。

すでに市の環境局や産業博物館などから仕事の引き合いを頂いているが、これに加えて環境問題に関連した市民活動への協力も、今年は何らかの形で考えてみたいと思っている。

## K T Sへの期待・要望



**三上** K T Sは法人化されたが、本格的な事業展開と財政基盤の確立はこれからの1年が正念場になるのではなかろうか。

ラストに、ご支援ご協力を頂くご出席各位から、辛口のご批判を含めて、期待並びに要望をお願いしたい。

### 提案型支援の掘り下げを

**安藤** K T Sの皆さんの持つ力は、市にとって非常に貴重な財産だと認識している。

特にお願いしたいのは、産学連携など従来からの活動は当然として、企業と企業の間をつなぐ活動にぜひ取り組んで頂きたい。昨年、若手経営者と一緒の勉強会を開いたが、それまで横同士の繋がりが全く欠けていたことを皆が痛感していた。

今からの産業活性化計画の具体化の上でも、ぜひK T Sのご支援ご協力をお願いしたい。

**山崎** 例えて言えば、K T Sは非常に肥えた畑だ。その畑に種子を蒔けば良い物が育つ。いろんな技術・ノウハウを持った方がおられるので非常に期待している。しかし、それがまだ良く知られていない。PRによる周知と提案型の活動が非常に重要だと思う。F A I Sとしても、この畑をぜひ使わせて頂きたい。そのためにも、ぜひ良い提案をお願いしたい。

**鶴田** 中小企業はいろんなニーズを持ってはいる。しかし、環境がめまぐるしく変化するのでついていけなくなっている、特にニュービジネスとか新しい研究開発とかでは。これには、単なる支援の域を越えて、プロジェクトリーダーとして会社に入り込んで成果を出す、学者やF A I S当たりと連携して、そこまで踏み込んだ活動はできないか検討されてはどうだろうか。

<この後、秦会長の謝辞があり閉会>

#### ● おことわり

この座談会は、紙数の制約からご発言の一部を圧縮又は割愛させて頂きました。しかし、大意はお伝えしたつもりです。ご了承方お願いします。

## K T S の動き

### 初年度は組織づくりに重点 部会参加を広く呼びかけ

特定非営利法人・北九州テクノサポート（略称・K T S）は、平成7年7月に結成されたT・S会を発展的に解消、14年12月12日に設立総会を開催、新たなスタートを切りました。

15年3月28日に福岡県知事の認証を頂き、4月16日に設立登記を行い、NPO法人として正式に発足をみました。

その事業運営については、理事会が決議機関としてその任に当たります。役員メンバーは、次のとおり。

会 長 秦 吉昭

副会長 仲 隆喜、小川 勝

理 事 本村 隆、米澤 昌、三上 亨、

” 泉舗昭雄、泊 正雄、石川 浩、

” 安東 静

監 事 増田幸一

発足以降理事会は、毎月1回（原則として第1



H15. 11. 30 理事会（マリンテラスあしや）

週火曜日）欠かさず開催し、運営の衝に当たってきました。

実施事業の推進を図る中心は部会組織とし、理事会での審議を経て、その種類、機能、責任者等を決定しました。その内容は下表のとおりとなっています。

本会では、この部会活動を事業推進の推進力と位置づけ、全会員に対し希望調査を実施、いずれかの部会に参加するよう呼びかけました。

部会の性格や機能により、その所属数には開きがあります。また、活動状況にも差がみられますが、すでに全部会とも活動を進めています。

昨年12月理事会（一泊・自費負担）では、発足以来の歩みを総括、本年1月6日の新年理事会では新たな事業の芽生えがみられるなど、明るい報告が出されました。その活動概況は次のとおり。

### ◇ 部 会 組 織 一 覧 表

名 称	主たる機能及び対応機関	責任者
事業部会	1. 企画 2. 運営 3. 検証 4. 反映	秦
事務局	1. 総務・総会 2. 運営（規程、規則） 3. 経理、財務、会計	米澤
技術・経営支援部会	1. 技術 2. 経営 3. 販売 4. 営業 5. 研究開発 6. 新製品・新商品開発 7. 中小企業支援センターとの連携 8. 中小企業のシーズ・ニーズ調査 9. 中小企業との連携 10. 受託業務 11. 提言	秦
産学連携支援部会	1. 大学等シーズ・ニーズ調査 2. マッチング 3. 産学連携センターとの連携 4. 大学高専・公設試との連携 5. 中小企業との連携 6. 国・県・市・公的機関との連携・受託業務 7. 知的所有権センターへの協力 8. 提言	石川
I S O 支援部会	1. I S O 認証取得支援・コンサルティング 2. 同研修企画・指導 3. 同メンテ 4. 受託業務 5. 提言	小川
E C O 支援部会	1. 調査提言 2. 環境・省エネ支援・研修・指導 3. 中小企業支援 4. エコタウンとの連携 5. 市環境局との連携 6. 受託業務	仲
I T 支援部会	1. NPO・北九州テクノサポートホームページ企画・管理 2. 双方向交流・新技術情報・情報提供 3. 情報化支援 4. シニアネットワーク事業 5. 受託業務	安藤
広報部会	1. NPO・K T S ニュース 2. 情報の提供 3. 関連機関との連携・情報交換	三上

## ☆部会活動概況

### ○技術・経営支援部会

- ・ 15. 7. 14世話人会開催、8. 26支援部会初開催、それ以降適時部会開催。
- ・ 訪問活動 F A I S、北九州商工会議所(10. 7)、県商工部新産業技術振興課(10. 9)、(財)県中小企業振興センター、山口銀行セミナー(11. 10)等、関係機関・団体訪問。
- ・ 北九州市産業技術博物館サポート員の登録。
- ・ 北九州市入札資格登録(15. 7～16. 9)。
- ・ 企業情報検索システム入力業務受託(9. 1～10. 31、20MD、約210社)業務完了。
- ・ F A I S 中小企業支援センターへ。窓口相談員 2～3名。専門家派遣 9名(上期 延べ18回)。
- ・ 北九州市産業技術博物館より、「企業調査・デジタルアートカイクプス化業務」について協力依頼。

### ○産学連携支援部会

- ・ 法人発足時に21名でスタート。7. 25第1回全体会議を開催。  
既に個人としてそれぞれの箇所で産学連携活動に従事している方が殆どであり、初年度は会員個人それぞれの経験を生かして、F A I Sをはじめ、市、県、大学等への提案をしながら事業を企画していく方針を決定。
- ・ 会員の中島浩衛・大同大学名誉教授の「プレス成形難易予測評価システム」〈中京地区自動車部品製作企業と産学共同で進めた実用化研究〉を北部九州の自動車部品メーカーへ紹介・導入、金型製作現場での具体的問題解決を進めることを目的として、「産学連携研究会」を本部会として企画、県商工部新産業・技術振興課へ提案、来年度発足の予定。(参画企業5社、研究会拠点：北九大国際環境工学部、事務局：本NPO法人)。
- ・ 「福岡県ものづくりシンポジウム」(2. 20開催予定)・県商工部より講演者依頼あり推薦。
- ・ 県ものづくり推進会議について協力依頼。

### ○ISO支援部会

- ・ 部会員13名で構成、原則として毎月定例会を開催。
- ・ ISO内部監査員養成講座、ISO取得後の保全指導等を実施。

- ・ 「エコアクション21」(ISO14001より簡易な環境管理システム)普及セミナー〈2月6日開催〉について、市環境局より実施機関としての協力依頼。

### ○ECO支援部会

- ・ 部会員9名で構成、原則として毎月定例会を開催。
- ・ 北九州市環境局国際協力室が企画する「環境国際ビジネス意向調査」について、海外企業と地元企業とのビジネスマッチングを効果的に行うための調査を、北九州市内及び近郊企業約100社を対象に実施、うち訪問調査企業32社分の調査を受託調査中。

### ○IT支援部会

- ・ 部会員8名で構成、原則として毎月定例会を開催。
- ・ KTSのインターネットによる広報活動及びホームページの企画・製作・管理を実施。
- ・ サーバー等を設置して、ネットワークシステムを構築。
- ・ 北九州地区内中小企業を対象に、「IT化に関する実態調査」を実施中。

### ○広報部会

- ・ 部会員6名で構成、夏期、新年2回の会報発行前に編集会議を開催。
- ・ 会報夏期号 15. 8. 11発行、8P・1200部  
" 新年号 16. 1. 20発行、12P・1200部

## ただいま会員89名

KTSの16年1月20日現在会員数は89名です。これを専門分野別にみると、次のとおり。

機械・金属	34名 (38%)
技術・経営・管理	24名 (27%)
電気・電子	12名 (14%)
化学	9名 (10%)
情報・通信	8名 (9%)
その他	2名 (2%)
合計	89名 (100%)

<http://tsk.ktc.ksrp.or.jp/>

KTSホームページは、上記のとおりです。アクセス回数は、着実に増加しています。

「情報交換コーナー」では、会員に限らずどなたでも投稿できるよう門戸を開放しています。ご活用下さい。

新春  
随想

## 継続的・総合的支援活動展開を

(財)北九州産業学術推進機構

中小企業支援センター長 三木昌義

NPO・KTS会員の皆様におかれましては、すこやかに新春を迎えられましたこととお喜び申し上げます。

'04年の日本経済は果してどのように展開するのでしょうか！デフレ基調の中、輸出関連、情報関連業種が先導役となり、製造業を中心とする各企業の経営改革努力の成果とも相まって、少なくとも前半は昨年末の緩やかな底堅い動きが続くものと思いますが、これも多くのリスク要因“世界経済、為替、テロ、行政改革、年金、税制等々”の動向次第であろうと考えられます。後半は再び下降線を辿る可能性もあると予測されます。

現在の経済情勢はあまりにも不安定要素が多く、先行きを読むことはきわめて困難ですが、いずれにしても“悪化シナリオをベースとして早目早目の対策を講じておくことが肝要”と考えます。

さて、私達のクライアントである地域の中小企業にとっては、マクロ経済の動きがどうであれ依然として厳しい状況が継続するものと思われます。

特に個々においては、格差がますます開き、ま

だら模様がさらに鮮明になるものと考えます。

こういう状況の中で、勝ち残っていくポイントやはり「差別化された技術・製品」、「経営者の意欲と組織の活力」、「計画的・適宜な会社運営」が絶対不可欠です。

この観点から私達中小企業支援センターとしては、単発的、部分的な支援ではなく継続的、総合的支援活動を今年度は本格的に展開していくつもりです。もちろん従来支援活動は継続してまいりますが、特に支援すべき対象を明確にし、長期的かつ集中的に支援・関与することでその成果を確かなものとし、支援企業とその喜びを分かち合いたいと思っております。

この推進につきましてはTS会として発足以来、長年にわたって支援活動を展開してこられたKTSの皆様方とのタイアップが不可欠で、この紙面をお借りしひとつひとつの具体的支援につき、さらなる協業をお願いする次第です。

最後になりましたが、KTS並びに会員各位のますますのご発展をお祈り申し上げます。

新春  
随想

## 新年のわが社 その「希望」と「危機」

有限会社 しまだ福祉用具研

技術顧問 嶋田裕之

明けましておめでとうございます。

併せてKTSとしての初めての新年、心よりお祝い申し上げます。TS会と私との関わりで印象に残っているのは、仲副会長とご一緒した海外での商談会で、大層お世話になりました。

さて、私の所属する「しまだ福祉用具研」は福祉・医療機器の開発、製造、販売を専門に行うことを目的に平成13年12月に設立しました。

平成14～15年はFAISのご支援で「産学官連携事業」で「障害者・高齢者の自立、就労」を支援するテーマで助成を受け開発を進めています。共同開発者は九州歯科大学と労働福祉事業団総合せき損センター及び産総研の皆さんです。

今春の内に新商品1～2を発売予定で頑張っています。販売や製造に関しKTSのお世話になることがあると思います。技術顧問として他の社員



とともに「希望」「夢」を膨らませている春です。

一方、私は株式会社アダブテクノの代表に昨年9月より就任しています。これにはいきさつがあります。平成13年10月に当時のアダブテクノは、ある会社(商社)の100%子会社となり、私は代表を退いていました。

昨年8月その商社が自己破産しました。アダブテクノ商品のユーザ(全国的及び海外)から商品供給の継続を求める強い要望があり、またご支援を頂き、再度代表に就任した次第です。

現在は、アダブテクノの代表として破産管財人との交渉、またアダブテクノの主銀行との関係などで、頭も体も全力投球しています。

この件については、FAIS(中小企業支援センター)からご支援を頂き感謝しています。

アダブテクノについては、その「名」より事業の継承だけは絶対に続けます。

新春の挨拶というより2つの社の現状報告になりましたが、あえて現状を公表することにより、自らの新春の決意に変えたいと思いました。

「しまだ福祉用具研」の新商品(Made in KITA-KYUSHU Japan)の海外雄飛の可能性と、「アダブテクノ」の事業継承の実現を目指して、今年は社員とともにZ旗を掲げ奮励努力します。

KTSの皆様ならびに関連企業の皆様のご健闘をお祈りします。

新春  
随想



## わが国の環境問題と E C O支援部会の取り組み

K T S 理事 泊 正 雄

最近の環境問題は地球温暖化防止への対応、循環型社会の構築、新たな化学物質の規制など極めて大きな拡がりを持っている。特に廃棄物場の逼迫、資源制約に伴う問題を背景に循環型社会形成の基本原則が定められた法制度も制定された。18世紀後半の産業革命により化石燃料等の消費が急速に増加、わが国に於ても明治～昭和初期まで大規模工場は少なく、三井・三菱等の財閥系企業主体で、金属鉱山の精錬に伴う亜硫酸ガス、スライムを河川へ、石炭鉱山の選炭水の川への放流による限られた地域であった。公害の原点は、足尾鉱山の鉱毒事件から始まったと言える。昭和30～35年以降、大規模工場等が出現し大量生産時代となり、国民も豊かとなり電気製品や自動車の普及で大量消費、廃棄の時代に入った。かつ都市化も進展、都市ゴミ、建設廃材、残土、廃自動車(シュレッダーダスト)等が問題となり、生産活動に伴う副産物はそのまま廃棄するのが安上りで、毒物は水で希釈して川や海にたれ流し、ガスは煙突を高くして大気中に放出すれば水や空気が希釈してくれるという発想は水俣病、四日市喘息に代表される公害という手痛い経験を経て、環境汚染

物質の排出は行政によって厳しく規制・監視されるようになった。また、土に穴を掘って生ゴミ、プラスチック、建設廃材等一緒くたに投入覆土するとか、海岸にコンクリート等で護岸を作って埋立て土地造成をする発想で埋立ててきた。一般廃棄物は5000万t/年、産業廃棄物は約4億t/年となり、特に紙中心から石油製品(塩ビ、塩素含有サランラップ、難燃性プラ、廃家電、廃OA等)を焼却するとダイオキシン類発生や化石燃料使用でCO<sub>2</sub>による地球温暖化、エアコン冷媒フロンによるオゾン層破壊の問題が発生、1992年地球サミットで地球温暖化要因が話し合われ、1993年わが国も環境基本法が制定され、1998年COP3で化石燃料燃焼に伴うCO<sub>2</sub>削減率(日本は1990年の6%)の話し合いが行われた。環境は人類を含む地球上の生物の存続の基盤であり、将来も共有すべきもので、ECO支援部会員として北九州市が進めておられる環境首都創造の環境配慮型都市造りに協力して行きたいと思っています。



# 福祉用具研究開発センター

## 企業案内

昨年11月に開いた広報部会で、2004年新春号の編集方針を協議、KTSに近しい企業・団体の紹介案内を掲載してはということになりました。

その第1号として、「福祉用具研究開発センター」さんに白羽の矢を立て、同月28日、秦会長、三上理事の2人で同センターの工藤義高所長に面会、所内を見学しお話を承りました。

以下はその案内記です。紙数の制約でほんの要約版になりましたが、いささかでもご参考になれば幸いです。

### ◇組織の概要

- 所在地 北九州市小倉北区馬借1-7-1  
北九州市総合保健福祉センター1F
- 所属 (社福) 北九州市福祉事業団
- 設立 平成10年4月
- 組織
  - ・所員 8名(所長1、総務2、開発2、販売3)
  - ・会員 正会員 12社  
賛助会員 12社

### ○組織の沿革

少子・高齢化社会の到来で、長期展望に立った対策が要請されています。

この大きな流れの中で本センターは、北九州市と財北九州活性化協議会の提唱により、平成10年4月に設立、12年4月に社会福祉法人・北九州市福祉事業団の一部門となり、現在に至っています。

### ○事業目的と業務内容

その目的として

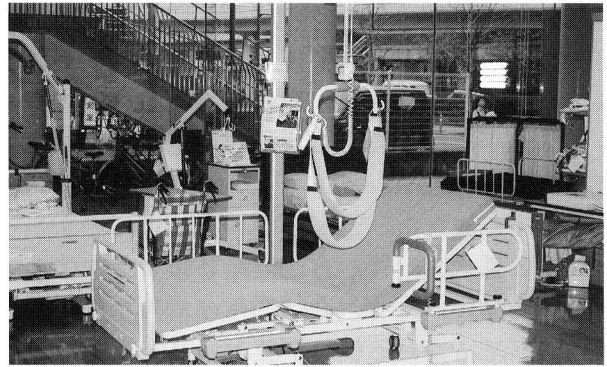
- (1) 福祉用具を切り口とした「地域全体の産業活性化」
- (2) 市民、保健・医療・福祉の現場の人たちに喜ばれる「福祉用具の開発」

の2つが掲げられています。

この目的に添って、次の3事業を実施。

### 1. 福祉用具の研究・開発・事業化支援

- ・ 北九州市内企業の技術シーズを活用し、市



福祉用具開発センター・開展示品

場ニーズに適応した新商品企画

- ・ 研究開発に参画企業を募集、企業間プロジェクトの推進
- ・ 研究助成金申請、研究開発の支援
- ・ 開発商品の生産・販売形態の調査、最適事業形態の検討

### 2. 企業への支援

- ・ アイディアはあるが商品化が困難な企業・個人へ、可能な企業の斡旋
- ・ 販売ルートの検討、確保など販売に関する支援

### 3. 福祉関連情報の収集・発信

- ・ 集積情報の商品企画への活用
- ・ 集積情報の企業、団体及び福祉用具利用者への提供

本事業のキー・ポイントは、まず新商品の開発にあります。正会員各社と当センターが共同で開発、商品化した福祉用具が10社16商品、販売ルートに乗せられ、年商6千万円(H.14実績)規模になっています。

販売エリアは、福岡、山口、大分県を中心に、その主対象は高齢者施設、この販路拡大のためのマーケティング戦略の確立が最重要課題となっているようです。

### 編集後記

北九州T Sニュース新春第2号をお届けします。T・S会ニュースから通算すれば第15号です。

2年目に入ったKTSにも明るい芽がふき出しつつあります。

ご寄稿ご協賛を頂いた各位に厚く御礼申し上げますとともに、今後一層のご支援ご協力をお願いします。

(T. M)

謹賀新年



より精密により高品質に！

ファインセラミックス&不定形耐火物

大光炉材は、ユーザーニーズへの迅速・  
確実なレスポンスをモットーに、独自の  
技術開発力を武器にダイナミックな展開  
をしています。

**大光炉材株式会社** 〒804-0054北九州市戸畑区牧山新町1-1  
新素材開発部 (ファインセラミックス)  
<http://www.taiko-ref.com> Tel:093-871-8356, Fax:093-882-7300

保全から創造へ  
より豊かで快適な環境を創造する総合技術コンサルタント

環境アセスメント・環境計画・環境設計・環境創造・環境管理  
環境調査・測定分析・環境エンジニアリング・メンテナンス



**環境テクノス株式会社**

代表取締役 鶴田 暁

本 社 〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2番4号 Tel(093)883-0150  
e-mail. kariyo@kan-Tec.co.jp Fax(093)883-0701  
営業所 福岡・長崎・大分 研究所 北九州市若松区向洋町10-21

ウォータージェット&レーザー精密切断  
精密な切断ならお任せ下さい。(多くの材質に対応)  
切るだけでは駄目のお客様は精密板金部門で対応。

**佳秀工業株式会社**

(北九州メタルアート研究会事務局)

北九州若松区南二島二丁目24-10  
TEL093-701-3131 FAX093-701-2111  
ホームページ <http://www.kasyu.co.jp>  
E-mail: [kasyu@kasyu.co.jp](mailto:kasyu@kasyu.co.jp)

- ・ 温度計測用諸機器 …………… お気軽に
- ・ 産業用諸機器 …………… ご一報下さい！

( 熱電対、測温抵抗体、補償導線、附属品 )  
温度校正装置、温度校正業務  
電気炉、乾燥炉、産業用諸機器

ヤマリ  
JCSS ISO9001 **山里産業株式会社**

北九州営業所長 堤 康弘

〒805-0008 北九州市八幡東区枝光本町8-15  
TEL 093(671)5834 FAX 093(662)3652

- ・ 施設・在宅用徘徊感知器
- ・ 非接触個体識別装置
- …………お気軽にご相談を!!

**ADAVE 株式会社 アダブテクノ**

代表取締役 嶋田 裕之

〒804-0064 北九州市戸畑区沖台2-13-16  
TEL (093) 873-0170  
FAX (093) 873-0175

**CAD、CAMの導入・活用、  
生産管理のご相談は当社へ！**



株式会社 エーエスエー・システムズ

代表取締役 麻上 俊泰

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号  
TEL (093) 882-0100  
FAX (093) 882-0066



代表取締役社長

**波多野 浩**

株式会社 **九州メディカル**

■本社 ■バイオ事業部 ■西日本調剤センター薬局

北九州市小倉北区大手町13-4 〒803-0814  
TEL093-592-0511(代) FAX093-592-1206  
e-mail ▶ [kmed@05.alphatec.or.jp](mailto:kmed@05.alphatec.or.jp)  
home page ▶ <http://www.alphatec.or.jp/~kmed/>

この町で地域医療のお手伝い。

**株式会社キューリン**  
MEDICAL LABORATORY

〒806-0046 北九州市八幡西区森下町27番25号  
TEL 093-642-3911 FAX 093-642-3967



“**KOLA**”

21世紀に向け最強!サイエンスの助っ人。

これからは、情報も技術も専門化の時代です。  
遺伝子関連の技術は、**KOLA**にお任せ下さい。

**KYURIN**  
MEDICAL LABORATORY

# 謹賀新年



福祉現場のニーズに応えた商品を、  
北九州市の企業のみなさんと一緒に創っています

## 福祉用具への参入企業募集!

### 発売商品例

- 折りたたみ介護ベッド (電動昇降型)  
吉川機械工業株式会社
- おむつ交換カート「さわやかももちゃん」  
株式会社セントラルユニ
- 光触媒脱臭機 (福祉施設・病院用)  
東陶機器株式会社
- 在宅・施設用徘徊感知機「with you」  
株式会社アブテック
- ベッド用転落予知装置  
ビービーエスシステム株式会社
- セーフティシール「ほっとシール」  
日本乾溜工業株式会社
- 座位保持機能付き車いす「エイブルチェア」  
株式会社有蘭製作所
- エイブルクッション  
株式会社有蘭製作所
- パーソナルクッションkit  
(社福)北九州身体障害者福祉事業協会  
とりはた玄海園

社会福祉法人 北九州市福祉事業団  
**福祉用具研究開発センター**  
北九州市小倉北区馬場1-7-1 北九州市総合保険福祉センター1F  
〒802-8560 Tel.093-513-1815 Fax.093-522-8771

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.kati.gr.jp/>

## 『モノづくり技術で社会に貢献する』

### 吉川機械工業株式会社

- 営業品目
- ・一般産業機械の設計製作及び  
工作機械の修理、改造
  - ・真空包装機械の製造
  - ・介護ベッドの製造販売

〒804-0077  
北九州市戸畑区牧山海岸4番17号  
TEL (093) 883-0884 FAX (093) 883-0908  
E-mail: yhkwmn@yoshikawa-mi.co.jp  
Home page: <http://www.yoshikawa-mi.co.jp>  
Home page: <http://shindaigo.co.jp> 真空包装機械の紹介



産業廃棄物処理  
プラスチックリサイクル  
溶剤リサイクル

## 高野興産株式会社

本社 北九州市八幡西区御開2丁目5-1 TEL 093-691-2790  
北九州工場 北九州市若松区響町1丁目62-19

あらゆるニーズにチャレンジします!



西日本抵抗器製作所

Nishi-Nippon Resistor Mfg. Co., Ltd.

代表取締役 三藤 伸一

- 重電用抵抗器の設計、製作ならびに販売
- ロボット周辺装置の組立、ケーブル加工
- 各種機械加工

本社 〒806-0011 北九州八幡西区紅梅2丁目1-1  
TEL(093)631-4131 FAX(093)641-0763  
H, P : <http://www2.odn.ne.jp/adl79470/>  
営業所 東京・大阪

各種表面処理に関することなら「美と機能を  
創造する ishikawa」におまかせ下さい!

### 営業種目

- ①各種電気めっき
- ②プラスチック成形及びめっき加工
- ③各種研磨加工
- ④その他表面処理
- ⑤産業機械製作・販売
- ⑥住宅関連機器販売及び施工、メンテナンス



## 石川金属工業株式会社

代表取締役 石川 増太

本社 〒802-8512  
北九州市小倉北区赤坂海岸2番1号  
TEL. 代表(093) 541-3331 FAX (093) 541-3260  
ホームページアドレス <http://www.ishikawa-k.co.jp>



GL PIPE JOINTS 好評です

PAT.7849345 JAPAN

GASKETLESS管継手  
パッキンのいらない

新製品賞  
99中小企業  
優秀新技術新製品賞

福岡県知事賞  
中小企業先端技術賞  
福岡県知事賞

The Creative Corporation  
株式会社 大創

福岡県北九州市八幡東区西本町4-5-1  
TEL ... (093) 681-7195  
FAX ... (093) 681-7196

ご質問・お問い合わせは 専用FAX: (093) 681-7197

## 真空洗浄乾燥機の専門メーカー

- ・環境にやさしい洗浄技術
- ・精密洗浄(リードフレーム材~)、長尺品洗浄(20mパイプ~)まで!!

**AQA**

株式会社 **アクアテック**

代表取締役 堂元 雅洋

九州工場 〒811-4311 福岡県遠賀郡遠賀町老良485-12  
TEL093-291-5231 FAX093-291-5230  
E-mail [aqa@aqa-t.co.jp](mailto:aqa@aqa-t.co.jp)  
URL <http://www.aqa-t.co.jp>

からだにやさしい生活

- 浄水シャワーの必要性
- 快適な睡眠と健康のために開発されたハイテク素材によるエアクリン
- 体の中からキレイになるこだわりの豆腐製造機および豆乳

NPO介護支援ネットワーク協議会ふくおか会員

有限会社 **千 素**

センス

代表取締役 安松 邦博

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野2丁目9番8号  
小倉興産KMM南館3F  
TEL&FAX (093) 533-7705